



つなぎ つむぐ

☆☆☆☆☆☆☆☆ 「えべつ型コミュニティ・スクール」

令和7年5月20日

第56号

江別市教育委員会

総務課・学校教育課

小中9年間の系統性と一貫性を踏まえた指導を ～第1回小中一貫教育担当者会議で取組の共有～

4月22日（火）に令和7年度の第1回小中一貫教育担当者会議が開催され、市内25校で小中一貫教育を担当する先生方が一堂に会し、令和7年度の市の取組や各中学校区の取組等について情報共有を行いました。

冒頭、黒川淳司教育長から、「先生方のご尽力により江別市の小中一貫教育は確実に進んでいる。今年度も各中学校区のタイムマネジメントの計画に沿いつつ、新しいメンバー、そして新しい中学校区の先生方と協議しながら、確実に一歩ずつ取組を進めていただくよう心からお願いしたい。」と挨拶がありました。

その後、令和7年度の江別市教育委員会の取組計画について、事務局から提案がありました。主な内容としては、今年度も「目指す子ども像」の達成に向けて、「系統的な指導」「一貫した指導」「相乗的・補完的な指導」の3本柱で推進すること、そのために年度の早い段階で研修等を行い、具体的取組等について全教職員で共通理解を図りながら中学校区内の協働体制を構築すること、家庭や地域に対して取組の様子や児童生徒の姿、成果・課題等を積極的に発信すること等です。

次に、各中学校区の今年度の計画について、交流を行いました。どの中学校区もこれまでの実践を基盤としつつ、児童生徒の実態に即した活動へとさらに工夫し、より効果的で質の高い活動を目指しています。質疑では、中学校登校や部活動体験等に中学生自身を参画させる実践とその成果、中学校登校への小学校の先生の関わり方、小中9年間を見通した家庭学習指導の具体的な内容等についての交流が行われました。これまでも優れた実践は市内で情報共有し、他の中学校区が参考にして新たな取組を進めてきているので、今回の交流もとても有意義な時間となりました。全体での交流の後には、中学校区ごとに担当者同士の話し合いを持ち、今年度の計画の確認や修正等を行いました。

今後、各中学校区では推進会議や全体会議・合同研修会が行われ、推進体制を確立した上で具体的な計画を実行に移していきます。今年度も、目の前にいる子どもたちのために、充実した小中一貫教育が江別市全体で進められていくことになります。



黒川淳司教育長の挨拶



今年度の取組の発表



第一・第三中学校区の協議



第二中学校区の協議



野幌中学校区の協議



大麻中学校区の協議



大麻東中学校区の協議



江陽中学校区の協議



中央中学校区の協議

新たな学校運営委員の方々が決まりました！

～令和7年度のえべつ型コミュニティ・スクール～

4月23日（水）の教育委員会議で、各学校の校長から推薦された延べ235名の学校運営委員の方々が承認され、令和7年度の「えべつ型コミュニティ・スクール（CS）」の取組がスタートしました。コミュニティ・スクールとは、学校運営委員会（他地域では学校運営協議会という名称）が設置されている学校のことです。

「えべつ型CS」は、昔から地域が学校を支援する風土があり、地域人材を活用した教育活動等が進められ、さらに、4つの大学や教育関係機関がある等、「教育のまち」と呼ばれてきた江別市のよさを生かしながら「地域とともにある学校づくり」を目指していくために、平成29年4月から導入されました。



熟議をする第三中 CS



熟議をする中央中 CS



委員の委嘱をする北光小 CS

市立の小・中学校全区に学校運営委員会が設置されていますが、第二小と第二中は中学校区で1つのCSを合同設置しているため、現在、市内で24のCSとなっています。1つのCSには1校につき10名以内の学校運営委員が任命されており、第二中学校区では2校で合わせて14名の方々が学校運営委員となっています。各委員は、保護者や地域住民、校長及び教職員の他、学校運営に資する活動を通して子どもたちの成長のために力を貸していただいている方々等になっており、様々な立場の方々が委員会が構成されています。

学校運営委員会は、各学校や中学校区の目指す子ども像や教育活動、学校と地域の連携、教職員の働き方改革等、様々なテーマで「熟議」と言われる話し合いを行い、学校への助言や提言等を行う役割を担っています。

学校運営委員の皆様には、今年度も子どもたちの教育の充実に向けて、たくさんの力を貸していただきます。

初めて中学校で勉強し、雰囲気を実感しました！

～第二中学校区 中学校登校①(相乗的・補完的な指導)～

5月8日（木）に第二小の6年生が第二中に登校し、朝読書・朝学習から2時間目の授業まで中学校生活を体験しました。第二中学校区では、「小中の接続を円滑にし、中一ギャップをなだらかにする。中学校の学校や教室等の環境や生活スタイルに慣れる。小学6年生の進学に向けた意識を少しずつ高める。小中の教諭が一体となり、互いの児童生徒の様子を交流する。」こと等を目的とし、毎年、1年間に3回の中学校登校を実施しています。

実施後の児童の感想を見ると、子どもたちにとって貴重な体験となったことがわかります。



中学生の授業参観する第二小の6年生

【6年生の子どもたちの感想】

- 授業や生徒会室などを見て、小学校よりレベルが高くて小学校で習ったことは、当たり前前として扱われることがわかったから、今のうちに頑張ってお勉強をしようと思いました。そして教室を見てすごく静かに集中して勉強をしていたので、私も中学校に向けて残り1年の小学校生活は静かにするときにはする、とメリハリをつけることを頑張ろうと思いました。
- 1年生や、2年生の取り組んでいる姿が良くて学ぶことがたくさんあったので、小学校生活でも真似したいと思いました。授業も、小学校とは違い、自分で考えていくことが重要になっていることがわかったので、これからの小学校生活で、気をつけながら生活していきたいと思いました。